

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成29年8月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15  
一般社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日 毎月1日

定 価 1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替 00190-5-396045

名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 診療情報管理の質向上と均てん化

中村 博彦

中村記念病院 理事長・院長

第43回日本診療情報管理学会学術大会を、9月21、22日に札幌コンベンションセンターにて開催させていただきます。北海道では20年ぶりの開催で、多数の皆様方のご参加を宜しくお願いいたします。学会のテーマは「診療情報の更なる質向上に向けて」といたしましたが、会長講演のテーマには「均てん化」を加えました。

社会保障と税の一体改革により効率的な医療提供体制が求められており、地域医療構想を軸として二次医療圏での病床と病床機能の再配分が拙速に行われています。二次医療圏内での高度急性期や急性期病床の集約化が進み、地域の基幹病院が扱う手術を含めた症例数が今後益々増加すると予想されます。

基幹病院に従事する診療情報管理士にとりましては、診療記録の質向上は待ったなしの状況となっています。診療報酬を得るための単なるコピー・アンド・ペーストの診療記録ではなく、診療情報の開示や医療事故調査制度に耐え得る質の高い診療記録が求められています。診療情報管理士が病院内の中心となり、医師や看護師など他職種と協働して診療記録の質向上に取り組んでほしいと思います。日本診療情報管理学会をリードする先進的な病院の取り組みを積極的に受け入れ、医療の質向上に貢献できるように弛まぬ努力をしなければいけません。

その一方で、診療情報管理士に特化した仕事は、国際疾病分類(ICD)を用いた病名のコーディングです。医療統計で最も大切な死因統計の基礎となるものです。死因統計は死亡診断書に基づいて原死因が定義されますが、大半の医師は死亡診断書の書き方を十分に理解していないのが現状です。高齢化により死因として肺炎が増え、脳卒中を抜いて死因第三位になったと喧伝されていますが、多くの医療関係者はそのほとんどが誤嚥性肺炎であることを知っています。もしそうであれば、死亡診断書の直接死因が肺炎であっても何らかの先行死因が(イ)以降に記載され、原死因が肺炎以外の疾患になるはずですが、国際的にも先進国でここまで死因に肺炎が多い国はないはずですが。

超高齢化社会を迎えて、今後は療養型の病院や介護施設を含む在宅でお亡くなりになる方が増えると予測されます。「診療情報管理」は高度急性期を担う基幹病院のためだけではなく、そのエッセンスは慢性期の病院や地域の「かかりつけ医」にまで浸透するような「均てん化」も、日本診療情報管理学会が目指すべき重要なベクトル軸の一つではないかと考えています。

